豚 肉 情 勢

1月16日 更新　　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 11月の全国豚と畜頭数は、1,483千頭と前年並み(前年比100.0%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道101.9%、東北100.3%、関東101.4%、北陸甲信越97.5%、東海95.8%、近畿96.2%、中四国99.7%、九州・沖縄99.4% ○ 12月の全国と畜頭数は、1,426千頭(速報値12月31日まで集計、前年比97.4%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より1日多く、1日当たりの平均と畜頭数は71,280頭(前年実績:73,152頭/日、前年差△1,872頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;12月21日付け)によると、1月;1,420千頭(前年比103%)、2月;1,319千頭(同101%)、3月;1,437千頭(同98%)、 4月:1,409千頭(同106%)、5月:1,330千頭(同97%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約101%と前年並み。
	2.輸入	○ 11月の輸入通関実績は、豚肉全体で74.9千ﾄﾝ(前年比85.1%、前月比106.7%)と前年を下回った。 内訳は、チルドが35.7千ﾄﾝ(前年比84.6%、前月比106.5%)、フローズンは39.2千ﾄﾝ(同85.7%、同106.8%)となった。 国別でみると、チルドではカナダ、米国が減少し、フローズンでは、メキシコ、デンマークが減少し、カナダが増加した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド　　;カナダ17.5千ﾄﾝ(前年比86.6%)、米国13.9千ﾄﾝ(同76.1%)、メキシコ4.0千ﾄﾝ(同118.0%) フローズン ;スペイン12.6千ﾄﾝ(前年比100.0%)、メキシコ6.0千ﾄﾝ(同85.9%)、デンマーク4.0千ﾄﾝ(同40.2%)、カナダ3.3千ﾄﾝ(同148.8%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(12月26日公表)によると、12月の輸入量:72.0千ﾄﾝ(前年比104.6%)と上回り、1月の輸入量:72.7千ﾄﾝ(同97.1%)と下回ると見込まれる。 チルドは、12月は前年のカナダ産の輸入量が少なかったこと、1月は北米産の現地相場高の影響が要因と見込まれる。 フローズンは、12月は、国内の輸入品在庫量が多いことや、欧州産やメキシコ産の現地相場高騰の影響、1月は前年のカナダ産の輸入量が多かったことが要因と見込まれる。 令和5年12月:合計72.0千ﾄﾝ(前年比104.6%)、チルド32.9千ﾄﾝ(同123.6%)、フローズン39.1千ﾄﾝ(同92.6%) 令和6年 1月:合計72.7千ﾄﾝ(前年比97.1%)、チルド33.0千ﾄﾝ(同95.5%)、フローズン39.7千ﾄﾝ(同98.5%) 直近3か月(11月～1月)平均:合計72.5千ﾄﾝ(前年比93.9%)、チルド33.2千ﾄﾝ(同96.5%)、フローズン39.3千ﾄﾝ(同91.9%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 11月概況	○ 総務省発表の11月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,848g(前年比101.4%)、支出金額が2,860円(同103.6%)となり、 購入量、金額ともに、前年を上回った。(※2019年度比:購入量 103.6%、金額 113.7%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の11月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,218.9億円(前年比102.9%、既存店ベース101.7%)と前年を上回った。 精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉や鶏肉に需要がシフトする傾向が続いている。中旬からの気温低下とともに鍋関連の需要が高まったが、牛肉は和牛、国産牛に加え輸入価格も高止まりし苦戦が続く。 比較的価格が安定している豚肉は、小間切れや挽肉など普段使いの商品が好調となった。鶏肉は鳥インフルエンザ発生の影響を懸念するコメントも出ている。ハム・ソーセージの加工肉は引き続き動きが鈍い。
	12月概況	○ 日本チェーンストア協会が公表した11月販売概況によると、畜産品の売上は924.6億円(店舗調整後で前年比101.2%)となり、前年を上回った。 鶏肉の動きは良かったが、牛肉、豚肉の動きは鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。 ○ 11月末からの寒波の影響から月上旬は出荷頭数が伸び悩み需給が引き締まったが、 気温が安定した中旬以降は、年末にかけて1日あたりの全国肉豚出荷頭数が70,000頭超で推移したことで需給は緩和した。
	3.加工肉仕向量	○ 日本ﾊﾑ･ｿｰｾｰｼﾞ工業協同組合発表の11月の豚肉加工品仕向量は30.9千ﾄﾝ(前年比91.2%)と、加工品の値上げによる販売不振は続き、前年を下回った。 内訳は、国産原料6.7千ﾄﾝ(前年比98.8%)・輸入原料24.2千ﾄﾝ(同89.3%)となった。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは10.3千ﾄﾝ(前年比93.6%)と、下回った。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(12月26日公表)によると、11月末の推定期末在庫量は204.4千ﾄﾝ(前年比95.4%、前月比96.2%)となり、前年を下回った。 内訳は、輸入品;184.3千ﾄﾝ(前年比94.2%、前月比95.6%)と前年を下回り、国産品;20.2千ﾄﾝ(同107.5%、同102.5%)と前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、12月は204.1千ﾄﾝ(同99.4%)、1月は205.6千ﾄﾝ(同99.2%)と前年並みで推移するものと見られる。
枝肉相場	1.R5年12月速報値	○ 12月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;12月31日時点)は、551円/kg(前年比97.5%)と前年を下回った。 月前半は、前月中旬以降の寒波等の影響から生育遅れなどにより肉豚出荷頭数が伸び悩んだことで強含みで推移した。 中旬以降は、生育が進み肉豚出荷頭数は1日あたり70,000頭超となったことから需給が緩和し、弱含みで推移した。月平均では、前月は上回ったものの前年は下回った。
	2.予測 R6年1月	○ 1月は比較的暖かい日が多いことが見込まれ鍋物需要等に期待が出来ないことに加え、肉豚出荷頭数が前年より増加することが予想されており、 需給が緩和に向かうことが想定されるため、前月よりも弱含みで推移すると見込まれる。

＜相場予想:　東京市場、税込み＞	11月実績	12月速報値	1月予測	2月予測
【上物】(前年比)	519円/kg(91.9%)	551円/kg(97.5%)	500円/kg(94.3%)	520円/kg(88.4%)

備考

国内生産量の推移　(千頭:%)

暦年	国内と畜頭数	
	千頭	前年比
R1年	16,320	99.3
R2年	16,686	102.2
R3年	16,836	100.9
R4年	16,577	98.5
R5年　8月	1,300	98.4
R5年　9月	1,293	95.3
R5年　10月	1,437	103.3
R5年　11月	1,483	100.0

農水省出荷予測　(千頭:%)

暦年	出荷予測	
	頭数	前年比
R6年　1月	1,420	103
R6年　2月	1,319	101
R6年　3月	1,437	98
R6年　4月	1,409	106
R6年　5月	1,330	97

輸入量の推移　(ﾄﾝ・%)　財務省:通関実績

暦年	輸入数量		チルド数量	
	ﾄﾝ	前年比	ﾄﾝ	前年比
R1年	958,963	103.7	407,360	100.1
R2年	891,807	93.0	416,334	102.2
R3年	903,455	101.3	420,361	101.0
R4年	977,158	108.3	403,854	96.3
R5年 8月	73,930	85.4	35,456	104.7
R5年 9月	61,773	85.1	26,692	90.7
R5年 10月	70,198	92.6	33,509	118.8
R5年 11月	74,885	85.1	35,700	84.6

家計消費量　(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り			
	数量	前年比	金額	前年比
R1年	21,178	98.4	29,637	96.9
R2年	22,973	108.5	32,861	110.9
R3年	22,559	98.2	31,892	97.1
R4年	22,297	98.8	32,487	101.9
R5年　8月	1,737	96.7	2,681	99.6
R5年　9月	1,781	97.1	2,755	101.7
R5年　10月	1,850	95.5	2,862	99.9
R5年　11月	1,848	101.4	2,860	103.6

加工品仕向量　(千ﾄﾝ・%)

暦年	加工品仕向量	
	千ﾄﾝ	前年比
R1年	372.1	98.8
R2年	376.7	101.5
R3年	379.4	100.6
R4年	368.5	97.4
R5年　8月	26.8	91.3
R5年　9月	27.1	88.6
R5年　10月	28.3	90.6
R5年　11月	30.9	91.2

市況の推移(東京市場)(円/kg・%)

暦年	豚枝肉「上物」(税込み)	
	円／kg	前年比
R1年	524	101.2
R2年	561	106.9
R3年	546	97.3
R4年	582	107.0
R5年9月	695	109.3
R5年10月	560	91.4
R5年11月	519	91.9
R5年12月速報値	551	97.5